

つき BON の「誤解をおそれず言わせてもらえば」

めざす会幹事 大津寄章三

風立ちぬ いざ生きめやも

九月を迎えた。まだまだ残暑は残るが、これからは日々のあちこちに「小さい秋」を見つけられそうである。

思えばこの夏は私にとって一転機となった。6～8月の読書が60冊を超える、ということもその象徴となっている。むろん手当たり次第に乱読していたわけではない。これからどう生きるか、というテーマを持って読み、かつ思索していたのである。

学生時代は「求道」という大きな壁に立ち向かっていた。今思うとその稚気、青臭さを少なからず恥ずかしくも思うが、それでも懸命の読書や議論、行動、瞑想を通して「真なるもの」「善なるもの」「久遠なるもの」を渴仰していた哲学的時代であった。

私が幸いだったのは、十分戯画的・時代的な要素を孕みつつも、同じくそういう高みを見つめる先輩や友人と多く巡り会えたことである。空間的にもほぼ同じ町内に下宿し、しばしばアルコール共同体、と言われながら、それは高い青春の体温と飢餓感を共にできる仲間たちであった。今のファッションブルでお行儀のいい学生たちにはおそらく想像もつかないだろう。

以後仕事や家庭、それ以外の「国事」にも追われ、何とか毎日をしのいできた。悪く言えばベルトコンベアによるライン製造のような時代であった。

ラインも止まり、ふと立ち止まってからは思わぬ病を得たこともあり、少々心安からぬ日々も続いた。それから半年ほど過ぎたが、やっと最近になって「安心立命」の思想的地盤の入り口にたどりついたように思う。若き日に回帰したとも言えるし、仕事に代わる新たな天命を発見したと言ってもいいかもしれない。

そうなるとかえって体調も良くなってくるから妙なものである。私は今ならかりに大咯血をしたとしても（そういう病気ではないが）あわてて医者よ薬よ、とうろたえないだけの自信ができたように思う。

たぶん開き直れたのであろう。時間と義務感に追われていた若い日とくらべ、世俗的な欲望が薄れたせいもあり、人はどのように生くべきかについてブレの少ない思考ができるようになった気がする。ただ、その心境が周囲のいい意味での常識と少し落差を生じることも出始めている。私の体調を慮ってくれる人は多いが、うまく説明できないでいる。



思えば今まではけっこう野心的であった。もっと自分の声にみんな耳を傾けてほし

い、もっと注目されたい、もっとカネになることがしたい、もっと世の中を動かしたい等々。年齢や立場の変化がそういった油っぼさを次第に削いでいった。

今も、多くの人々に自分の考えを伝えたい、という気持ちは同じである。しかし、それが不満というかたちではなく、現在聞いてくれている、あるいはこの文章を読んでくれている人たちへの感謝という思いに変わってきた。そうすると不思議なことに、逆に講演の依頼が相ついで来たりするからこれも妙なものである。

「向かわんと欲すればすなわち背く」という禅の公案がある。追い求め追いかけている間はその対象は逆にどんどん逃げてしまっていく、ということである。真に大切なものは静かに祈って機縁の熟すのを待つ姿勢から生まれるのかもしれない。



いずれにしても夏が過ぎ、充電が完了した、という気がしている。これからは反転攻勢である。さいさきよくこの間（8／28）の投稿も新聞に載り、賛意も寄せられた。この秋、あちこちに出かけていこう。いろいろな人に会おう。自分は完全に元気だという前提で行動しよう。膝は十分に曲げた。あとは、跳ぶだけである。

土井田学市議

自民松山支連除名の顛末

土井田議員が自民党松山支連から除名処分を受けたニュースを見て、右翼というのはどんなことを言うのか、例えば祝日に国旗を掲揚するだけで右翼と言われてたりする、それが除名されるほどの重大事なのか、愛媛新聞の記事からは分かりませんでした。そこで9月14日に直接土井田議員から経緯を伺いました。「聞く力」不足を自覚しつつ、以下のようにまとめました。

7月下旬に福祉関係の全国大会が松山市であった。全国から4000名ほどが参加。大会を主催した団体の副会長と松山市民のA氏がお知り合いであった。副会長はA氏に電話され久しぶりに食事をされることになり会長も同行された。A氏は会長、副会長から、この大会は1年前から計画されたもので、案内した松山市市長から出席の返事があったにもかかわらず代理出席の一方で、国会議員の塩崎先生のご出席はあった、塩崎先生と愛媛県知事・松山市長の仲はうまくいっていないらしいという噂を松山で耳にしたという話を聞かれた。塩崎先生が出席されるから知事や市長が出席されないのだろうかと言う話になった。A氏は市長の考えを聞いて来ましようということになった。

A氏は土井田市議に電話してこられた。A氏からの電話は何年振りかであった。上記の件に関して、市長の考えをお聞きになりたいということであった。土井田市議は、大会の有無や当日の市長の行動を秘書課長に確認された。秘書課長から市長は他

の公務で出張されていたため副市長が代理出席されたという説明があった。土井田市議は、塩崎先生と知事・市長の不仲説があるらしいので市長の欠席のちゃんとした理由を A 氏に説明していただくことを求め、秘書課長は A 氏を知っている、連絡しましょう、ということで、直接の対応をお願いした。土井田市議は、市長と相談して連絡して下さいと頼んだことから、会長・副会長にも連絡が行き、全国大会開催のお礼や、あくまで市長の他の公務のために代理を立てざるを得なかったお詫びを申し上げているとばかり思っておられた。塩崎先生と不仲であるから出席しなかったというような誤解は解けていると思っておられた。

しかし、10日ほどして、A 氏から土井田市議に、市からは何も連絡がない、議長から市長に言っていただきたいから会わせて欲しいという電話があり、A 氏には議長の予定を聞いて連絡すると返事をされた。

土井田市議が議長秘書に電話をされたところ、他の用もあるからと市役所に来られた。土井田市議は A 氏が議長に会いたいという目的を説明された。議長は秘書課長に確認するとおっしゃり、土井田市議は席を外されていた。その後、議長から A 氏に会うという連絡があった。土井田市議は A 氏に市役所に到着する時間をお聞きし、議長室に秘書課長と副市長にも来ていただいた。

A 氏は来られるなり、土井田市議の紹介を待たず、いきなり名刺を出して議長に渡し話を始められた。塩崎先生が出る会には知事や市長はあまり出てないのではないかという噂がある、今、新聞や週刊誌が調べてくれている、事実ならイカン事でしょう、というようなことを言われた。副市長は、決してそんな意味でサボタージュしたのではない。そんなことはあってはならないと説明。その日はそういうことで終わり、それ以降、A 氏からは何も連絡がない。

9月4日になって議会中の代表者会議の打ち合わせが終わってから、議長が8月10日のことを報告しておきたい、土井田市議は都合が悪いなら席を外してよいとのこと。市議は退出する理由はなくそのまま残られた。議長は「土井田議員の紹介者に会ったらこんな名刺を渡されてこうこう言われた」と報告された。

9月5日に清水宣郎支連会長から、先ほど議長に呼ばれ代表者会議で議長から報告があった件で執行部会を開催、党紀委員会を開くことが決まったと聞かれた。土井田市議の知らないところで決めたことに疑義を呈したが、清水市議は「大きな力が働いている」と言われた。12月議会で何かあるだろうと先輩市議の事例を云々され、「大きな力」による土井田市議の今後の苦難の予言さえされた。

党規委員会の開催日の連絡は、8日に清水議員から12日10時半から国際ホテルで開催される、意見があれば会場に来るよという電話があった。

当日、土井田市議よりも早くマスコミが1社来ていた。土井田議員は委員会で7月下旬



の大会から8月10日の議長とA氏の面談に至るまでの経過、党紀委員会までの経緯を説明した。党紀委員会の10人の委員から質問はなかった。

会場を出て数時間後にマスコミ数社から「処分についてどう思うか」という電話がかかってくるようになった。しかし、処分については土井田市議には誰からも通知がない一方、清水支連会長は県連に土井田市議の除名処分を報告してというニュースが流れた。

13日午前10時半に郵便で通知処分が届き、それを受けて12時15分から約30分、ひとりで記者会見をし。経緯を話された。

土井田市議はA氏が現在どのような活動、政治なり宗教なり、をされているのか知る立場にはなかった。ただ県外から来られた方が、地元選出の国会議員と知事・市長の不仲というよううわさより、松山の美しい町並み、道後温泉、松山城といった史跡や観光地のよい記憶を大切にしていきたいと思われた。

【文責 青井美智子】

A氏が以前から「やばい」人であれば、土井田議員は警戒されたと思いますし、秘書課長は職務怠慢であったのではないかと思いますし、A氏は結局何をされたかったのだろうとも思います。市議会政治倫理検討協議会の設置が申し入れされたり、他の議員の仰々しいコメントが掲載されたり…。よく分かりません。

市政ウォッチャーの目

今回の問題の背景について問題の本質を読者にお分かりいただけるように以下の寄稿をもって補足説明をさせていただきます。

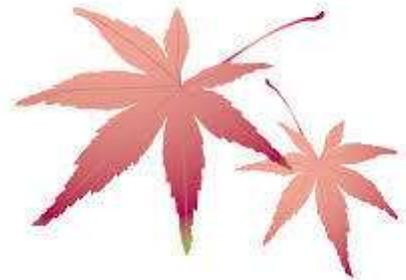
まず中村愛媛県知事と塩崎代議士はもともと犬猿の仲である。

野志松山市長は元南海放送のアナウンサーであり政治経験は0だが知名度があるということで中村氏が市長から知事に転出するとき後継者として中村氏の全面バックアップを受けて出馬しており完全に中村氏のコントロール下にある。

土井田市議と中村氏は中村氏が市長選挙に出馬するときは土井田氏が応援するなど近かったが、その後たもとをを分かって疎遠となり中村氏にとって土井田氏は目ざわりな存在ですきあらば土井田氏をつぶそうとしている。

何の団体であれ全国大会が愛媛県あるいは松山市で開かれる場合は地元知事や地元市長は大会会場に歓迎の挨拶に行くのは礼儀でありエチケットである。逆に行かないのは礼を失しているとも言える。

今回福祉関係の全国大会が松山市で開かれたが塩崎氏が現役の厚労大臣として大会



に出席して挨拶した。不仲である中村愛媛県知事は欠席して代理を出した。中村氏の指示であったかどうかは不明だが野志松山市長も欠席して代理を出した。

このことについて右翼とされる人間が土井田氏を通じて野志市長に会おうとした。市長には会えなかったのが議長（この議長は維新の会で中村系）に会った。土井田氏が右翼を紹介したということは土井田氏をたたく格好の材料となった。

愛媛新聞 門欄より

9月10日の愛媛新聞にめざす会顧問・渡部浩三氏の投稿が採用されました。



◇ 共通点多い英と関係深化を ◇

◇先日、英国のエイ首相が来日し、安倍晋三首相が手厚くもてなした。英国とはかつて日英同盟を結んだ時代があり、わが国に大きな国益をもたらしたのはご案内の通りだ。その後、第2次世界大戦をはさんで敵味方の時代もあった。

◇しかし、考えてみると、英国と日本は共通点が多い。まず両者とも島国だ。立憲君主国であり、国民はどちらかといえば保守的で控えめな性格である。近隣に大国もしくは気難しい国が存在し、何かと苦勞が多い。ただし、英国はかつて「日没せざる国」として世界に君臨した経験があり、いまだに英連邦を組織し、支配はしてないものの世界各地にネットワークを持つ。この点はわが国にない財産だ。

◇現在、わが国は日米同盟を外交の基軸にしている。それは尊重しながらも、欧州連合（EU）離脱で少し孤独な思いをしているであろう英国との関係を深めるチャンスだ。また、そのことは日本外交の厚みを増す上で決してマイナスにならないと思う。（財団役員）

奇しくも同じ10日にめざす会会員の渡辺伸吾さんの防衛に関する投稿が掲載されました。その渡辺さんから渡部浩三さんの投稿に寄せて、日英の親密さを語る一文をお送りいただきました。

駐在武官が結ぶ絆

日本に駐在する各国大使館に在勤する駐在武官の中には、今なお日本と固い絆で結ばれ、先人の顕彰を忘れない国がある。

例えば、トルコの駐在武官は日本に赴任すると、真っ先に和歌山県檜野崎に建つ軍艦「エルトゥール号」遭難慰霊碑に駆けつけて拝礼する。先のトルコ大地震では、わが国の海自の補給艦と輸送艦が救援物資を満載して救援に駆けつけ、トルコ国民から大歓迎を受け感謝された。また、これに先立つ昭和48年、トルコは何と 同じ艦名の駆逐艦「エルトゥール号」を串本港に派し、串本市民大歓迎のもと友好親善を深めたのである。

一方、毎年5月、広島県呉市にある鯛宮神社境内の第六潜水艇殉難慰霊碑まえにて慰霊祭が執り行われるが、この日、英国駐在武官が必ず訪れて拝礼する。いわゆる「陛下の艇を沈め……」の遺書で有名な佐久間勉大尉艇長指揮する第六潜水艇は、沈没直前まで各員持ち場を離れず、従容として命を捧げた。明治の潜水艦は草創期で各国でも事故が多く、沈没した艇を引き揚げると、各員ハッチに群がり折り重なって死亡しているのが常だった。ところが、日本海軍は誰一人として取り乱すことなく、佐久間艇長始め将兵は死の直前まで努力して息絶えたのだ。

当時、この逸話は日本国内だけでなく世界に感動の嵐を巻き起こした。英国海軍は一水兵にいたるまでこのことを教育している。

平成13年12月2日以降、海上自衛隊はインド洋での対テロ任務に従事する各国艦艇への後方支援活動をしている。平成14年1月30日、この日、海自の補給艦から英国駆逐艦へ洋上給油が行われた。給油が開始されるや、英艦から突如垂れ幕が下がる。そこには「祝 日英同盟締結百年」とあった。全海自隊員はアッと驚き、感動の渦に包まれた。同じくこの日、日本外務省へ一通の電報が入る。「日英同盟締結百周年を祝う」とあった。英国外務省からであった。外務省職員の感動したことはいうまでもない。

これに先立つ平成3年、ペルシャ湾派遣掃海部隊は、ペルシャ湾に入るやバーレーンにある英国海軍消磁施設で艦艇の磁気を消す作業に入った。緻密な操艦技術を要するこの消磁作業に英国海軍は、補給艦1隻、掃海母艦1隻、掃海艇4隻の海自の陣容を見て、これまでの各国からの実績から6日から7日を見込んでいた。ところが、海自部隊は何と1日で完遂したのである。英国海軍は驚きの声を上げた。「オーっ、さすがは日本海軍」と。それからというもの、あれもこれもと最新の機雷情報を海自に知らせ、最大の支援を惜しまなかったのである。



因みに、去る11月27日、派遣開始から丸5年を目前に海自の補給艦「ましゅう」がドイツ海軍のフリゲート艦に通算7百回目の洋上給油を行った。冷戦時代、西ドイツ駐在武官は靖国神社の春季秋季の例大祭に婦人子供を連れ一家で参拝を欠かさなかったことを思い出す。

初出：【史】平成19年5月号

渡部浩三氏の投稿を拝読してもっともだと思いました。大東亜戦争で敗れたとは言え、世界の軍人は日本軍を今も高く評価しています。私は現役の自衛隊員の時、海外へ何度か行く機会がありましたが、その度に、旧日本軍の戦いぶりに絶賛、我々自衛官に対して温かいもてなしを受けました。これも先人の奮闘と努力のたまものと感謝したものです。戦後、自衛隊が呱呱の声を上げたとき、米軍は、限りない支援と協力を惜しみませんでした。今日、最も、米国、英国と固い絆と交流を深めていると言えます。米海軍はアナポリスの海軍兵学校に日本から海上自衛隊から教官を迎え、米海軍から海上自衛隊の江田島の幹部候補生学校に教官を迎えて士官候補生の教育を実施しています。大使館には大佐級の軍人の駐在武官を派遣しているのが常ですが、

英国は駐在武官の海軍大佐以外に、昨年度から、海軍中佐を防衛省海上自衛隊幕僚監部に勤務させています。より強い信頼と交流を深めたい証と言えるでしょう。

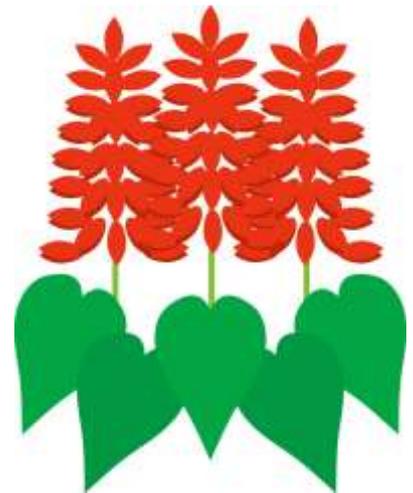
渡辺伸吾 拝（愛媛県今治市・船員）

拉致問題

特別失踪者問題調査会代表・荒木和博氏のニュースレターを中心にお届け致します。

<射殺？>

「警察で対応できるか。自衛隊、防衛出動か。じゃあ射殺か。真剣に考えた方がいい」武装難民の問題についての麻生副総理の発言が話題を呼んでいます。おそらく副総理は難民が来たらどう対処すべきか、国民全体で考えるべきだという文脈の中で言われたのでしょうか。北朝鮮の軍艦が大砲をこちらに向けてやってくるのであればともかく、武装難民と言っても難民の乗った船の中に武器を持った人間がいる可能性があった場合はどうするか。その確認からしなければなりません。少なくとも最初から銃をちらつかせてやってくるとは思えません。さらにそこに子供や女性も乗っていると分かれば、まさか射殺などできません。しかも拉致被害者や日本人妻、残留日本人などもいるかも知れないとなればたとえ一時的であれ保護することになるのは当然です。しかしそれではどこに保護するのか、誰がやるのか、予算はどこから出るのか、準備すべきことは山ほどあるのですが、日本国内ではまだほとんど議論がなされていません。個々の関連省庁ではやっているようですが、それが表に出る機会はおそらくないでしょう。そして突然そのときはやってきます。「難民は保護しなければならない」という建前論だけでやっていたら国民の不安は高まるばかりで混乱はどんどん深まっていくでしょう。麻生副総理の発言など「何と牧歌的な話」となるようなときが来ることを覚悟する必要があります。



「拉致、関心薄れている」＝曾我さん、帰国 15 年で会見一新潟

北朝鮮による拉致被害者の曾我ひとみさん（58）が 13 日、2002 年 10 月の帰国から 15 年を迎えるのを前に、新潟県佐渡市内で記者会見した。

曾我さんは「拉致問題について徐々に関心が薄れていると感じる」と危機感を募らせ、「ご家族が元気なうちに、みんなを日本に帰してほしい」と早期解決を訴えた。

北朝鮮の核・ミサイル開発に注目が集まる中、曾我さんは「ミサイルや核よりももっと大切な拉致という大きな問題がある」と強調。政府に対し、「自分の家族がこうしていなくなったらと、もう一度考えてほしい。一日も早い解決のため今まで以上の力を出していただきたい」と求めた。

行方が分からない母ミヨシさん＝失踪当時（46）＝については、「病気だけにはならないよう願うだけ。帰ってきたら力強く抱き締めて、ありがとうを言いたい」と再会を望んだ。

夫のジェンキンスさん（77）や長女の美花さん（34）は地元で働いているといい、曾我さんは「日本での生活を楽しく送っている」と報告。次女ブリンダさん（32）は結婚して親元を離れ、「母親として安心している」とほっとした表情を見せた。

9/13(水) 17:08 配信 時事通信

【調査会 NEWS2550】(29.9.17) <「その後」について>



前の村尾専務理事のニュース及び本日の国民大集会での私のスピーチで中波しおかぜの停波についてお伝えしましたが、短波は今後もそのまま1日2時間半の送信を続けます。短波は日本国内からの送信であり、コストも安いので続けられますが、聴取可能性は高いものの格段にコストのかかる中波を止めるということです。中波もなんとか早くに金集めをして再度送信を開始したいと思います。ご支援よろしくお祈いします。

【調査会 NEWS2546】(29.9.11) <話し合い>

社民党の元国対委員長だった日森文尋元衆議院議員と元法相である平岡秀夫・前衆議院議員はこの8月に北朝鮮に行ったそうです。「週刊現代」の記事ですが、お二人とも大変北朝鮮に理解を示していたことが分かります。

記事で日森氏は「そもそも朝鮮は、過去2000年の歴史で、小石一つ日本へ投げたことはない。日本は何度も侵略したにもかかわらずだ」と言ったと書かれています。まだこんな人がいたんだなあ、何か懐かしいものすら感じます。

9月にはアントニオ猪木参議院議員も北朝鮮に行ったそうですが、金正恩に叩きつけて「拉致被害者を返す。核・ミサイルの開発はやめる」と言わせたわけではないようです。

「話し合いが必要だ」と言っている皆さんはこういう話し合いを期待しているのでしょうか。相手が命がけで連れて行った日本人をこういう人たちとの話し合いの中で返すというイメージはどうやっても湧かないのですが。

日本政府はストックホルム合意や平壤宣言がまだ生きていかにしています。話し合いの場がなければ間が持たない。それ以外のことをしなければならなくなるということなのか。それなら外務省ではなくこれらの方々は何回でも北朝鮮に行ってもらったらどうでしょう。幻想を抱いている国民も、現実を理解するような気がします。

【調査会 NEWS2543】(29.9.8) <高齢化>

特定失踪者家族会は今日現在、特定失踪者の数で53名、48家族(会員)が入会しました。

同会の竹下珠路事務局長(古川了子さんのお姉さん)が現在の公開特定失踪者及び政



府認定者・救う会認定者、291人の年齢を調べたところ次のような結果が出ました。

20歳代	0人	0%	30歳代	9人	2.5%
40歳代	26人	9%	50歳代	60人	21%
60歳代	84人	29%	70歳代	66人	23%
80歳代	37人	13%	90歳代以上	9人	2.5%

竹下さんは特定失踪者家族会役員宛のメールで「私たちは自分の家族の高齢化を訴えています、具体的に被害者の年齢は公開している中でも50歳以上が約90%であり、60歳以上でも約70%おられるのが現実です。既に100歳を超えている方も2人います」と訴えています、これは全ての国民への訴えとも言えると思います。

10代、20代、30代で拉致をされて如何に長い年月が経っているか、とにかく早く救出しなければ、被害者の皆さんの命が持たないのです。

【調査会 NEWS2537】(29.8.31) <ギャップ>

月曜から今日までソウルに来ていました。今は仁川空港で出発待ちです。

最初の朝にミサイル発射がありました。日本ではかなり大騒ぎだったようですがこちらでは良く言えば冷静、悪く言えば平和ボケで、「日本でこれだけ大きな問題になっている」というニュースが流れていました。

こういう感覚のギャップは韓国に来るとしょっちゅう感じることで、「反日」などでも同様です。この間ソウルのバスで慰安婦の人形を乗せたのがあるというニュースが流れていましたが、おそらくこちらの人の多くはそれ自体を知らないと思います。

吉田清治の息子さんの代理人として天安市にある「望郷の丘」の謝罪の石碑を書き換えて逮捕された奥茂治さんともこちらでお会いしました。奥さんについて、日本では韓国で厳しい取り調べを受けているかのように思われていますが、韓国の警察も検察も極めて紳士的で、特に検察は取り調べの可視化などについては日本の検察よりまともな部分もあるようです。

自分自身朝鮮半島研究者であり、年に何度も来ているのですが、毎回このようなギャップには悩まされ、またそれが面白くて朝鮮半島研究をやっているような気もしています。

何はともあれやはり現場に来ないと分からないことは少なくありません。北朝鮮もおそらく同様です。奥茂治さんが韓国に来てやったように、北朝鮮に乗り込んで何かした方が事態が進展するのではないかとも思っている次第です。今日本で抱えている北朝鮮のイメージと現実には相当ギャップがあるはずで、意外な弱点も見つけられるのではないのでしょうか。

☆☆☆ 事務局 から ☆☆☆

★9月29日(金)夕方の、両陛下ご奉迎パレードにご参加下さい。受付は松山南高で5時から6時出発。パレードは南高→銀天街→大街道→一番町口。解散は8時以降です。お申し込みは青井まで、お急ぎ下さい。

★両陛下のご訪問先で日の丸小旗を持って奉迎させていただくこともできます。下記に大まかなご予定をお載せ致します。

29日(金) 松山空港→県立美術館→全日空ホテル(ご宿泊)
30日(土) 全日空ホテル→砥部運動公園 国民体育大会開会式→全日空ホテル(ご宿泊)
10月1日(日)全日空ホテル→道後温泉→県武道館→松山空港

時間帯と小旗の入手方法につきましては、ご奉迎実行委員会(090-9773-1816)か、青井までお問い合わせ下さい。

★ご奉迎協賛金はまだしばらく受付しております。よろしくご協力下さいませ。

☆「旅客船」No.280に寄稿された渡辺伸吾氏の「来島海峡に消えた宮窪丸」を添付させていただきます。一時、渡辺さんが遭難した宮窪丸の乗客の慰霊に関することで忙しくされているのは存じておりましたが、拝読させていただき改めて渡辺さんのご尽力に感動しております。愛媛新聞の記事が今治西高放送部の目に止まり、NHK放送部コンクールのテーマに取り上げたいと連絡があったそうです。そして「失われた70年」というタイトルで愛媛県大会で優勝、放送もされた模様です。さらにこの8月、全国大会へ。1500校の中で準決勝まで進む快挙を成し遂げました。そして特別に「奨励賞」を受賞。渡辺氏は「これに勝る喜びはありません」と語っておられます。



★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子 〒791-0221 東温市上村甲218

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

.....
http://www.mezasukai.com/ ｽ-ﾙmichikoaoi25@yahoo.co.jp
.....